

お名前

(様式2)

大阪市立南市岡小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標1 安全・安心な教育の推進】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・本市調査における「いじめを受けた児童生徒が当該行為をいじめではないと否定することをもって「いじめはない」と判断するのではなく、当該児童生徒の表情や様子をきめ細かく観察するなどして確認し、いじめに該当するか否か判断している」とする教員の割合を100%にする。(R6年度 100%)</li><li>・小学校学力経年調査における「自分には、よいところがあると思いますか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を77.3%以上にする。</li></ul>	A

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【1-1 いじめへの対応】</p> <p>いじめ対策委員会及び生活指導連絡会を通して、児童の実態把握に努め、定期的にいじめアンケートを実施する。また、「心の天気」を活用し、児童の心の変化を注視する。</p>	B
<p>指標</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・いじめ対策委員会及び生活指導連絡会を月に一回以上実施する。</li><li>・いじめアンケートを学期に一回以上実施する。</li><li>・「心の天気」で雷マークを入力した児童に聞き取りを行い、即時対応する。</li></ul>	
<p>取組内容②【2-1 道徳教育の推進】</p> <p>道徳の年間指導計画に従って、道徳授業の充実を図るとともに、様々な学校行事を通して、児童の自己肯定感を高められるよう取り組みを進める。</p>	A
<p>指標</p> <p>学校アンケートにおける「自分にはよいところがあると思う」に対して、肯定的に回答する児童の割合を過去3年平均(86%)以上にする。</p>	

### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

①毎月いじめ対策委員会及び生活指導連絡会を実施しており、いじめ事案など、児童の実態について職員間で共有した。また、いじめアンケートは6月と12月に実施した（3月にも実施予定）。いじめがあるとわかった場合には、即時聞き取りをした上で、担任をはじめ、関係する教職員や管理職で連携し、対策にあたった。さらに、「心の天気」では、雷マークが見られた場合に即時聞き取りを行うなど、有効に活用している例があるものの、入力頻度は学級によってばらつきがあった。

②道徳の授業は、各学級で年間指導計画に従って実施した。また、各学校行事では、各学年の児童の実態に合わせて内容を吟味し、児童全員が活躍できるように工夫を凝らした上で実施することができた。学校アンケートにおける「自分にはよいところがあると思う」に対する回答は90%となり、目標とした数値（86%）を上回った。この結果は9月のアンケート結果（85%）より6%上回ったが、その一因としては、運動会、学習発表会など、児童の実態に合わせて学校行事の内容を充実させたことや、練習の過程で児童に対して丁寧な言葉かけを行ったことなどにより、自己肯定感が高まったことが推察される。

### 次年度への改善点

①いじめ対策としては、現状の取り組みを継続するとともに、きめ細かく児童を観察したり、教職員と児童が話しやすい関係を作ったりして、いじめのサインを早期に発見することが今後も重要である。なお、「心の天気」については、入力頻度が日数の半分にも満たない学級が多くあった。そのため、毎日児童全員が入力することを目指すとともに、担任が即日チェックし、声かけを行うことが、いじめを発見する機会をより増やすためにも重要であると考えられる。

②道徳の授業はもちろん、その他の授業においても、児童間で認め合うことができるように学習活動を工夫する。また、学校生活の様々な場面では、全ての教職員が児童の望ましい行動に対して、賞賛したり励ましたりするように努める。学校行事においては、事前、事後の指導も充実させることで、児童が達成感を十分に味わえるようにする。本年度は例年に比べて異学年での交流の機会が多く見られたが、児童の自己肯定感の向上のために有効であったと考えられるため、今後も継続することが望ましい。

上記のことは、現在でもある程度実践できているが、本年度のアンケート結果の数値（90%）を上回るためには、各事柄について、より頻度や精度を高めることが必要であるとされる。

お名前

(様式2)

大阪市立南市岡小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標2 未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>・小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」に対して、最も肯定的な「当てはまる」と回答する児童の割合を <b>48.1</b> 以上にする。</p> <p>・小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を <b>92.2</b> 以上にする。</p>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【4-2 「主体的・対話的で深い学び」の推進】</p> <p>校内研究を通して、文章や資料を読み理解するための指導の工夫を行う。学習ノートやハンドサイン、視聴覚機器なども有効活用し、自分の考えを明確にして、交流したり表現する場を設定し、主体的・対話的な学びを深める指導方法の工夫を図る。</p>	A
<p>指標</p> <p>学校アンケートの「自分の思いや考えを表現することができる」に対する最も肯定的な回答を <b>48.1%</b>以上にする。</p>	
<p>取組内容②【5-2 健康教育・食育の推進】</p> <p>児童が自身の生活習慣を振り返る機会を設定し、元気に健康で過ごすことの大切さについて意識を高める。</p>	B
<p>指標</p> <p>年間2回、健康生活週間に取り組み、小学校学力経年調査における「朝食を毎日食べていますか」に対して肯定的に回答する児童の割合を均 <b>92.2%</b>以上にする。</p>	
<p>取組内容③【5-1 体力・運動能力向上のための取組の推進】</p> <p>体育的行事や体力づくりの取り組みなどを工夫し、体力・運動能力を高められるようにする。</p>	A
<p>指標</p> <p>年間に2回以上体力づくり週間に取り組み、学校アンケートの「運動をすることが好きだ。」に対する肯定的な回答 <b>85%</b>以上を維持する。</p>	

### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 様々な学習場面で、ハンドサインや交流活動などの発表の場を設けたり、ICTのスクリーンメニューを活用して表現の場を設定したりした。その結果、積極的に自分の考えを文で書き表したり、発言したりして表現するなど、主体的に表現する児童が増えた。  
しかし、その実態と、児童のアンケート結果の数値に乖離があった。これは、半数程度の児童が、「自分の思いを表現する」ことは、「手を挙げて発表すること」だけだと認識していると考えられる。
- ② 前期に引き続き、早寝早起きをするとうれいと、学校生活の様々な場面で指導者から伝えた。年2回取り組んだ「健康生活週間」は、児童の健康への意識を高めるきっかけとなった。
- ③ 1年生と6年生など異学年で遊んだり、運動ができる場所を増やしたりして、休憩時間や隙間時間に進んで体を動かすようにした。その結果、児童相互が認め合う場面が増え、休み時間に運動や遊びを楽しむ様子が前期より多く見られた。また、2学期末から行った「かけ足週間」や「なわとび週間」では、カードを活用し、目標をもって取り組むことができた。

### 次年度への改善点

- ① 今後の課題として、「自分の思いや考えを発表する」ことが、作品や文章、友だちに説明することも、「表現している」ということを、児童に伝えていくことがあげられる。また、引き続き、ICT活用による、友達との意見共有などの場の工夫を行う。  
授業者の指導力の向上において、基本的な授業の構成である「めあてに沿った授業展開」のための、教材分析を深めていくようにする。
- ② これまでの取り組みを引き続き行う。特に、年2回の「健康生活週間」は、児童の健康への意識づけにとっても有効的であったため、続けていく。また、ほけん日より、食育日より通して、保護者への意識の啓発を行う。
- ③ 児童の学校生活において、体力向上のための短時間の運動や、朝、帰りの隙間時間などの有効活用を行っていく。どの児童も取り組める運動を行っていく。自分の体をコントロールできるための体幹トレーニングなどが挙げられる。また、さらなる引き上げのためには、環境や季節の気温差などを考慮したうえで、運動が苦手な児童の理由の分析とアプローチを学校全体で考えていく必要がある。

お名前

(様式2)

大阪市立南市岡小学校 令和7年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A: 目標を上回って達成した B: 目標どおりに達成した  
C: 取り組んだが目標を達成できなかった D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

年度目標	達成状況
<p>【最重要目標3 学びを支える教育環境の充実】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・授業日において、児童の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50.0%以上にする。〔ただし、事務局が定める学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕</li><li>・年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を30.0%以上にする。 (R6.12現在60%) (R7.12月現在41.9%)</li><li>・小学校学力経年調査における「読書は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を79.6%以上にする。</li><li>・本市調査における、「学校図書館貸出冊数(児童1人当たりの年間貸出冊数)」を40冊以上にする。</li><li>・小学校学力経年調査における「学校図書館やその蔵書を活用した授業を計画的に行いましたか」に対して、「週に1回程度、または、それ以上行った」又は「月に数回程度行った」と回答する学級担任の割合を87.6%以上にする。</li></ul>	B

年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標	進捗状況
<p>取組内容①【6-1 ICTを活用した教育の推進】 ICT機器やデジタル教材を積極的に活用した学習指導を進める。</p>	B
<p>指標 デジタルドリル等、学習者用端末を活用した学習に週3回以上取り組む。</p>	
<p>取組内容②【7-1 働き方改革の推進】 業務の効率化や健康維持への意識を高める。</p>	A
<p>指標 学校閉庁日については、夏季休業期間中は3日以上、冬季休業期間中は2日以上設定する。</p>	
<p>取組内容③【8-2 「大阪市子ども読書活動推進計画」に基づいた取組】 朝の読書タイムや図書館開放を充実させ、進んで読書をする児童の育成を図る。</p>	A
<p>指標 学校アンケートの「読書をしている」に対する肯定的な回答を80%以上にする。</p>	

### 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

- ① 指導者用デジタル教科書や書画カメラなどの ICT 機器を活用した導入、並びにスカイメニューなどを活用して話し合い活動の充実が図られた。また、児童は、デジタルドリル (Navima) での復習、インターネットでの調べ学習やカメラ・動画の撮影による情報収集、タイピングによるローマ字入力の練習など、学習者用端末を積極的に活用した学習を進めることができた。しかし、低・中学年では、以前より使う意識はしているものの、週 3 回の学習者用端末の活用ができていないところも見受けられた。
- ② 学校閉庁日を夏季は 7 日、冬季は 3 日設定し、スーパーゆとりの日には定時に退勤するよう心掛け、健康維持への意識の向上が図られた。また、SSS のおかげで、超過勤務時間はかなり短縮できている。しかし、業務の偏り (量・時期) もあり、遅くまで勤務している職員もいた。
- ③ 朝の読書タイム、図書館ボランティアや主幹学校司書による読み聞かせ、主幹学校司書や図書委員会による図書館開放、国語科の並行読書も充実している。これは、主幹学校司書による児童への働きかけの効果がかなり大きい。また、高学年では、すきま時間を見つけては図書の本を開くなど、進んで読書に親しむ児童の姿がたくさん見られた。その結果、学校アンケート「読書をしている」に対する肯定的な回答の割合が、令和元年からの統計史上最も高い 90% を記録した。

### 次年度への改善点

- ① 学習者用端末の更新により、基本、持ち帰って充電することになったが、学年の実態に応じて運用できている。付属品 (タッチペン) の貸し出しについて、検討していく。また、今後も、指導者が積極的に ICT 研修会などに参加し、スキルを高め、授業で活用できるようにしていく。そして、活用状況の共有 (どの教科でどんな活用をしたのか) という一覧表を作成していく。
- ② 業務内容を見直して、全体で負担できることは全体で行うなど、業務の偏りをなくしていくとともに、業務の効率化を図っていく。また、成績処理にかかる業務 (あゆみの前期後期制) を削減していく。
- ③ 朝の読書タイムができていない学級もあったので、学級の実態に応じつつも時間を確保し、静かに本を読めるようにしていく。